

令和3年度 福岡県看護協会 看護の進路・進学支援委員会 主催

(令和3年8月18日開催)

「看護学校と職場の情報交換会」

実施報告書

テーマ「マスク越しの世界で基礎教育と新人教育について語り合おう」

公益社団法人 福岡県看護協会

看護の進路・進学支援委員会

はじめに

「看護学校と職場の情報交換会」は、新型コロナウイルスが流行する以前の2年前は、学生や新人看護師への対応や今後の教育指導に向けて情報交換を行う貴重な機会となっております。しかし本年度は感染拡大状況を鑑み、オンライン形式での開催となりましたが多くの方にご参加いただきました。臨床では集合型の研修会が縮小されている中、今回医療施設の現状と対応策について共有でき、貴重な機会となったと感想をいただきました。

今回の報告書では、事例および各グループのテーマについて意見交換された貴重な意見を集約し、みなさまに提示できるよう作成を進めて参りました。

新人看護師Aさんについての問題点、対応策については看護学校と医療施設で共通した事案となっております。臨地実習等にて実践の機会が減少し、周囲の人との関わりが少なくなったことによる心理面への影響などが課題となっていました。

また各グループで設定したテーマについて意見交換を行っていただきましたが、活発な意見交換があり、時間が足りなかったという感想が多く寄せられました。各グループで設定したテーマに沿って、新人看護師に対する教育方法の検討、精神面へのフォロー体制などを中心に意見交換がなされ、様々な施設が同じような課題、悩みを持っている現状がみえてきました。

さらに教育する立場の方々が抱く問題点や、学生や新人看護師の不安や悩みは共通している部分が多くあることがわかりました。しかし、新型コロナウイルスの影響により看護学校や医療施設間に限らず、身近な人々との情報共有する場が制限され「孤立」する状況もあることが懸念されました。もっとみんなと情報を共有したい、なんとかしてこの状況を脱する糸口を探したいなど様々な思いがあることが、本研修会を通じた気づきとなりました。

しばらくはこのような「マスク越しの世界」が続くことが予測され、現代社会から医療施設で就業する看護職への期待や要望は益々大きくなると思われます。このような現状に対し今回のような情報共有を通し、みなさまの知恵と工夫でこの難局を乗り越えていくことが可能になると信じております。そして、テーマでもある「マスク越しの世界」のマスクが弊害となるのではなく、命を守る手段であるという認識へと転換し、新たな発展へと繋がることを願っております。

今回の「看護学校と職場の情報交換会」で交わされた意見が他の看護学校や医療施設の方々とも少しでも情報を共有するものとなれば幸いです。

2022（令和4）年3月吉日
看護の進路・進学支援委員会
委員長 森 雄太

I. 趣旨説明

近年、IT(情報技術)が発達し、電子メールや SNS が普及したことにより、人と話す機会が減ってきています。そのような若者の社会的背景や多様性からコミュニケーション力などが低下している学生や新人看護師が見受けられ、教育指導においての課題を抱えた状況がありました。さらに昨今の新型コロナウイルスの影響により、看護学校では対面授業、病院実習の中止、新卒後研修では Web 研修や OJT 中心となり、従来と違った対応が求められました。

看護学生や新人看護師だけでなく、教育・指導する側も悩みや困難感を持ちながら、試行錯誤の対応が必要でした。しかし、このような現状をお互いに共有できる場も縮小されている現状があります。

今回はこのような状況を参加者で共有することを目的として開催しました。「ちょっと気になる学生・新人看護師」の、教育指導上の困難感、対象理解としての学生・新人看護師の社会的背景や言動の背景、教育指導における支援の工夫・成功事例について、グループディスカッションを通して課題や解決策を共有し、教育実践に活かせる意見交換の場を設けることを趣旨としました。

II. 実施方法

第1部：事例を元にディスカッション（図1, 2参照）

事例 A さんについてグループ内で問題点と解決策を話す。

意見交換時の問いの例：

- ・養成学校から新人看護師までの状況で、気になること、悩みはどんなことでしょうか？
- ・事例のような方との関わりで困ったことはなかったですか？またどんな対応が必要でしょうか？
- ・その人の強み、いいところを伸ばすためにどんなことが必要でしょうか？

第1部：事例紹介—新人看護師Aさん—

養成学校時の状況

- ・病院実習が新型コロナウイルスの影響ですべて中止となった。学内で演習や事例展開にて代替えた。
- ・学校への通学も制限され、友人と直接交流する機会も前年に比べ減少した。
- ・就職試験は病院見学をオンラインで参加。就職試験もオンラインで受験した。
- ・教員と面談する中で「病棟実習に行っていないため、看護師としてやっていけるか不安だけど、がんばりたいです」と発言あり。

新人看護師Aさん



10

図1. 第1部事例紹介①

新人看護師としてスタートしたある日…

新人看護師になってからの状況

- 就職し新人研修はWeb研修が中心。
- 新人看護師同士で集まる機会はほとんどなかった。
- 外科系病棟へ配属され、最初はシャドーイングを中心に業務を覚えていった。
- 就職1カ月後に受け持ち先輩看護師見守りのもと、受け持ち患者を持ち始める。
- ある日、先輩看護師に対し「患者さんのところへ行くことが怖くなった。まだまだ未熟なのに自分が対応してもいいのだろうか。一人で対応することができない」と泣きながら発言があった。
- 師長とも相談し患者受け持ちを止め、シャドーイングを継続した。



11

図2. 第1部事例紹介②

第2部：各グループで問題点、解決策をディスカッション

各グループで自由に情報交換する。

情報交換する中で出てきた、問題点や悩みについて、具体的な解決策について検討する。

意見交換時の問いの例：

- 各グループで自由に情報交換する。テーマは各グループで設定する。
- 例：こんなときが困った、成功事例の紹介、今後の新人看護師に対する対応など
- 情報交換中に出てきた、問題点や悩みについて、具体的な解決策を検討する。
- 困った事例や成功事例について共有する。
- コロナ禍における学生や新人看護師が抱えている問題点はどんなことがある？

III. 意見交換の内容

第1部事例Aさんをもとにした意見交換と第2部の各グループの自由な意見交換について、各グループの共通している意見や特徴的な内容を紹介します。

【看護学校の現状】

- 臨地実習の減少による、患者とのコミュニケーションの困難さや技術面に対する不安を抱く学生が多い。
- 友人とも対面で接する機会が減少し、メンタル面に不安を抱える学生が増えている様子が伺える。
- オンライン授業が増えたことで、自分のペースでできる反面、教員や友人に質問や相談することができず不安を抱く学生が増えた。
- 積極的に親が出てくるようになっている。

- ・学内で実習を展開する機会が増えた分、事例については学習することができたが、臨機応変な対応が難しい状況があった。
- ・教育側や病院側、いろんなところでどう育てるか、どう支援するかなど機会を持って考えていくことが必要なのかもしれない。

【新人看護師の状況】

- ・リアリティショックや自己肯定感が低いことが予測され、メンタル面での休職がでてしまうのではないかと。
- ・臨地実習を経験する機会が減少し、人と接する体験が少ないことでコミュニケーションをとること、患者の所へ行くことが怖いという状況があるのではないかと。自分から発言することが難しいような状況がみられる。
- ・技術面を心配するよりコミュニケーションがとれるか心配する声が多かったように思われる。
- ・どのようにすればいいのか相談できず、その場で固まってしまう。
- ・同期との交流の場も減少したことで、一人で抱え込んでしまう人が多くいる。他者からの刺激が少ないことで、自分自身の成長を感じる事が難しい状況があるといえる。
- ・現在の世代の強みとして、情報を収集する能力は高いため必要な情報収集の手段を伝えることが必要である。
- ・学生時代からの社会人基礎力の育成が必要。学生の実習では、バイタルサインは測定してもオムツや点滴は自分の責任外という状況もある。実習の際に、臨床と学校で連携して学生が責任を持って看護を行うことができるように指導していくことも必要である。
- ・振り返りノートを活用したことで、自分自身の振り返りに活用でき成長を感じることができていた様子があった。

【新人看護師に対する指導者の対応】

- ・とにかく緊張が強いため、まずは慣れるための工夫を行うことが必要である。うまくいったことに対してはきちんと褒めることで承認し、新人が安心できる場を作る。
- ・安心感を与え、オリエンテーションを長くとることや、意図的に承認すること、笑顔で接することが必要である。
- ・先輩看護師と1対1で対応するとともに、とにかく褒める。きちんと言語化して伝えることを意識することが、指導者側にも必要である。
- ・カウンセリングを通して、不安の傾聴だけでなく、生活面、体重減少や食欲など生活状況についても把握することで、状況を細かく把握することを試みている。
- ・できていないことに目を向けるのではなく、小さなできた部分に目を向けていく。
- ・実習ができていない新人を受け入れるにあたり、今年度からローテーション研修を取り入れるようにした。引率教員のかわりに指導者を専任でつけるようにした。

- ・休まずにきたことを褒め、承認する。成功体験を多く取り入れていく。徐々にできることを増やすことによって、自己効力感を高めていく。

【指導者の困難感】

- ・指導する側もどのように接すればいいかわからず、苦悩することがみられた。
- ・教わった課程や社会背景が違うことで、自分たちが教わった方法では通用しないことが多く、どのように教えることが効果的なのか難しい。
- ・指導者の悩みを可視化することで、病棟全体でフォローすることが必要である。

IV. アンケート結果

令和3年度 看護学校と職場の情報交換会 参加状況とアンケート結果

【開催日】 令和3年8月18日(水) Zoom開催 14:00～16:00

【参加状況】

定員	応募者数	内訳	決定数	参加者数	参加者内訳	参加率	
80名	81名	病院	67名	74	60名	92.5%	
			43施設		43施設		42施設
		学校	14名		14名		14名
			11校		11校		11校

(参考)

	参加者数	参加者内訳
平成30年度	102	病院:89 学校:13
令和元年度	110	病院:95 学校:15
令和2年度	新型コロナの影響で中止	

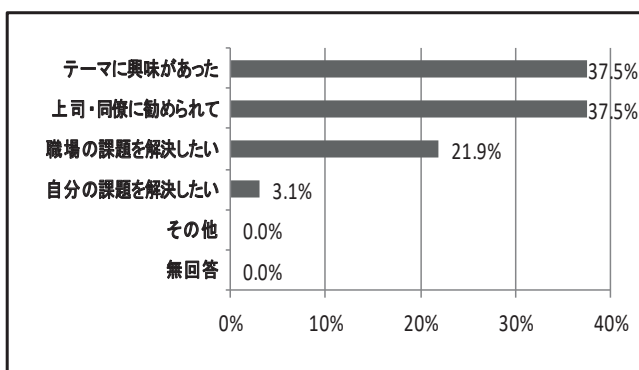
【アンケート結果】

参加人数： 74 名

回答数： 64 名

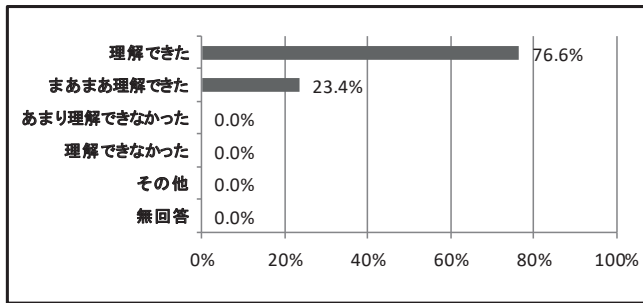
回収率： 86.5%

I. 本情報交換会への参加動機をお聞かせください。(主なものを1つ選んでください)



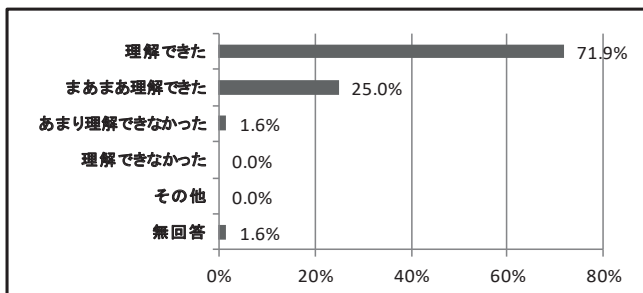
テーマに興味があった	24	37.5%
上司・同僚に勧められて	24	37.5%
職場の課題を解決したい	14	21.9%
自分の課題を解決したい	2	3.1%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	64	100.0%

II.本情報交換会の趣旨は理解できましたか。



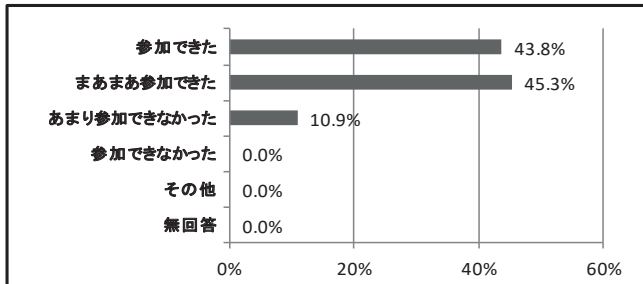
理解できた	49	76.6%
まあまあ理解できた	15	23.4%
あまり理解できなかった	0	0.0%
理解できなかった	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	64	100.0%

III.グループワーク展開方法は理解できましたか。



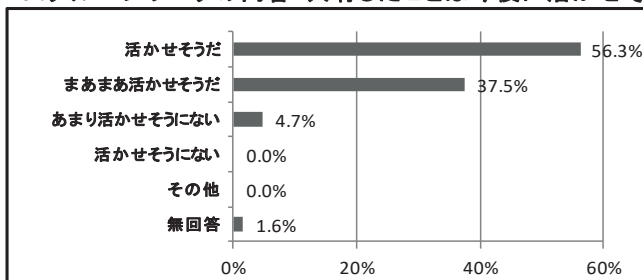
理解できた	46	71.9%
まあまあ理解できた	16	25.0%
あまり理解できなかった	1	1.6%
理解できなかった	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	1	1.6%
合計	64	100.0%

IV.グループワークに積極的に参加出来ましたか。



参加できた	28	43.8%
まあまあ参加できた	29	45.3%
あまり参加できなかった	7	10.9%
参加できなかった	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	64	100.0%

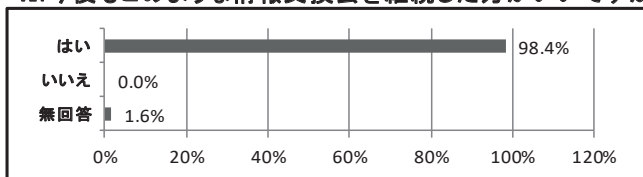
V.グループワークの内容・共有したことは今後に活かそうですか。



その他の意見 ・求めている内容ではなかった

活かそうだ	36	56.3%
まあまあ活かそうだ	24	37.5%
あまり活かそうにない	3	4.7%
活かそうにない	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	1	1.6%
合計	64	100.0%

VI.今後もこのような情報交換会を継続した方がいいですか。



はい	63	98.4%
いいえ	0	0.0%
無回答	1	1.6%
合計	64	100.0%

IX.全体を通して、ご意見・ご感想をお聞かせください。

- ・対面とは違いますが、メールなどの顔が見えないやり取りや事例報告とは違い、こういう場を活用するのは良いことだと思います。福岡県も広いので、職場にしながら参加できるこのような研修がもっと増えていてもいいように思います。
- ・他病院の状況や、対応を聞くことができて良かった。教員の方の意見も聞けて参考になりました。貴重な機会をいただきありがとうございます。
- ・学生指導や新人教育について、臨床と教育の場からディスカッションすることができて、自分にとって学びになりました。
- ・どの施設も共通の問題を抱えていると思いました。今後の力になりました。
- ・Zoomなのでディスカッションが難しいかな…と思いましたが、司会の方の運営もあり、かなり活発な意見交換ができました。教育機関から臨床にいかにかシームレスに繋ぐかは永遠の課題であるように思います。
- ・多くの意見を聞くことができ、良かったです。現場だけではなく、教員の方の意見を聞くことができたこと、他病院でも同じように試行錯誤しながら取り組んでいることが分かり、勇気づけられました。
- ・Zoomだと移動する時間がないので気軽に参加できるのでよかったです。小グループで顔を見ながら話せるのは良かった。
- ・初めて、情報交換会へ参加させて頂きました。どの施設でも試行錯誤しながら教育の実践をされていると同時に、参考にさせて頂くことも多々ありました。看護学校とどのように連携していくかも重要であると感じました。有意義な学びの機会となりました。
- ・定期的にこのような機会があれば、今回のテーマに関する直近の課題解決につながると思いました。
- ・コロナ禍で臨地実習がなかなか通常通りできない状況で、就職に不安を感じている学生もいますが、今日、病院の方の話を聞いて改めて、学校と病院がともに協力しながら新人看護師を育てていることを感じる事ができ、非常に心強く思いました。
- ・学校として学生のために何ができるのか、今後も考えながら教育をしていきたいと思えます。コロナ禍で多くの方々が悩み、考え、動いていることが分かり、励みになりました。
- ・Zoom開催で、参加しやすく良かった。今回色々な意見やアドバイスをもらったので今後に生かしたいと思えます。もう少し討論の時間があればより良かったと思えました。もう少し情報交換をしたかったです。
- ・学校側との意見交換を期待していたが、病院間の意見交換がほとんどだった。学校が実習先に何を求めているのかなど聞きたかった。
- ・普段聞くことができないたくさんの方の意見が聞くことができて良かった。
- ・コロナ禍の中、このような交換会を開催していただきありがとうございます。
- ・他施設の新人教育の現状が分かった。今後、参考にさせていただきます。
- ・2時間では短く感じましたが、内容は濃く充実していました。Zoomというのも、業務の合間に参加できて良かったです。

V. 考察

考察では、研修会の中で出された意見とアンケート内の意見をもとに委員会の中で検討した内容を記載しました。新型コロナウイルスによる学習への影響だけでなく、スマホ世代やZ世代など現在の学生、新人看護師の生い立ちや社会背景を理解することが、サポートする上で必要な要素だと考えられます。また、社会人として成長するために、専門職者として成長するためにどのようなサポートが必要であるかについても検討しました。

1. Z世代の特徴を理解する

意見の中でも、新人看護師の特徴に対しどのような対応をすべきかわからないといった意見もあり、社会背景の変化によって、思考や行動が変化していることがあるようです。

最近の若者のキャリア感は、「社会貢献」の意識が強いといわれています。他者や社会の役に立つことが、自己存在を認める手段になるからです。存在そのものに価値があることが理解できず、何かができなければ、社会の役に立てなければ自分の価値が見いだせない世代であり、人間として成長発達途中にあるといえます。¹⁾ まずは新人看護師を理解し、支援していくことが重要だと考えます。

Z世代の特徴、特に若手看護職の資質を念頭に置いたとき、職場の心理的安全性を高めるコミュニケーションのキーワードは「上から目線ではないフラット目線」「1人ひとりの子を尊重した対話」「レスポンスの重要性」の3つがあげられます。心理的安全性は、他者の反応に怯えたり、羞恥心を感じたりすることなく、自然体の自分をさらけ出すことのできる環境を指す心理学用語であり、「自分はここにいていいんだ」「否定せずに受け止めてもらえるんだ」などといった“居場所”を感じられる状態です。¹⁾ そのため、指導者は新人看護師としての役割を明確にすることで、徐々に自分の居場所を見つけていけるようにサポートしていくことが必要だと考えます。

そして、現場に入った時に、とまどう新人看護師の【理解者になる】【できない自分も認めていける関係づくり】をすることが重要です。健康でいることや遅刻せずに出勤できることなど当たり前と思えることもしっかり言語化して【承認】のシャワーを降らせることが必要かもしれません。【承認】されていると感じることが、【社会に貢献できている】と理解されるようです。

このような特徴を持った世代を育てるために、どれだけ自信をもって現場で働くことができるか、アイデンティティの向上に向けた取り組みが一つのキーワードとなりそうです。

2. 臨地実習の経験が乏しく、コミュニケーションが難しい現状に対して

臨地実習も不十分である状況を考え、技術面に関しては初歩的な手技からチェックを行うことが必要であることが意見として多くみられました。臨地実習の延長だと仮定し、新人教育を行う必要性や以前に比べ、シャドウイングを延長することを念頭においた新人研修など、既存の研修

を修正しながら対応することが求められているといえます。

シャドウイングを効果的に活用し新人看護師の実践につなげるためには、新人の技術習得のみでなく、「対話」と「コミュニケーション」を繰り返しながら、看護が見える学習（見せる・語り合う）や看護が実践できる新人看護師の育成を意識していくことが必要だと考えます。そうすることで、“看護は楽しい”“将来こんな風になりたい”と看護師としての将来の希望に繋がると考えます。^{2) 3)}

自分自身の実践した内容に自信がないことによって、モチベーションの低下、看護技術能力の未発達、離職へとつながることが懸念されます。そのためにも自分自身が行った行動や思考のリフレクション力を養い、考える力や経験から学ぶ力を育むことが必要であると考えられます。

3. 看護師として、社会人として成長していくために必要な支援

初期キャリアは自分らしく看護がしたいのにできない気持ちや成長を諦めたくないようなつらい体験をしながらも、自己実現としての看護を模索する時期であり、経験の中に埋めこまれた自分の大切にしたい看護実践や看護の価値を見つめつつ、実践できるように醸成していく時期です。看護実践能力の向上が自己実現につながっていることを忘れずに、経験を積み重ねながら自分が大事にしたい看護を模索し、変化を意識していくプロセスをたどることが大切です。¹⁾

新人1人ひとりに個性があり、基本的技術の習得状況なども異なります。指導側の一方的な指導とならないように、【成人学習者】として認識し、新人の受け止め方や表情などを確認しながら進めることは、新人の効力感を高め、主体性の育成にもつながると考えます。¹⁾

ともに看護を深める仲間として受け入れ、看護を語る力を養うための看護を語る環境づくりを設けることで、ともに成長していくことが支援する側に必要な姿勢であると考えます。さらに新人看護職員の「円滑な社会化」ができるように支援することが大切であると言えます。

4. 今後の課題

新型コロナウイルス感染症による影響は今後も長期に及ぶことが考えられ、今後も臨地実習経験の少ない看護職の入職が予測されます。加えて、指導する立場の看護職との育った社会背景が違うことによる感性や特徴があることを理解した上で指導にあたることが求められてくると思われます。

ゆえに、看護基礎教育を教える看護学校と協力して学生の臨場感を支援し、情報を共有しながら長期的な視点で教育していくことが課題となるかと思われます。

本委員会でも今後も看護師養成学校と医療施設との情報交換会を継続し、みなで看護学生や新人看護師をサポートする一助となるよう会の運営を図っていきたいです。

おわりに

今回の情報交換会は、病床数の多い施設から小規模の施設と臨床数が異なる施設の方にご参加いただきました。

その中でも、病床数の多い大規模の病院では大人数の研修の難しさ、小規模の病院では指導する側の困難感など施設の概要によって困難感に違いがあったように感じられました。各施設規模に応じて研修内容は指導体制の違いがあり、それぞれ工夫を凝らした対応をされていたことが意見交換されていました。様々な施設の現状を知るきっかけとなり、今後につながる貴重な機会となったと考えております。

看護職は医療専門職として、プロフェッショナルとしての心構えを身につけられるよう関わっていくことが今後も求められます。超高齢社会の到来、多種多様な生活・社会背景を抱える対象者、疾病の変化など看護職に求められるニーズは常に変化し、それに順応していくことを求められることが予測されます。そのことを看護学生および新人看護師のときから、自覚を持つことが重要であり、また教育的立場にある方はそれを支援していくことが必要だと考えます。

看護学校の教員の方々にも、臨床現場で就業している姿を知ってもらうことや卒業後も関わりをもつ機会を設けることで、新人看護師のメンタル面を支えることに繋がることが期待されます。苦勞して看護職に就いたことを是非みてほしいと思います。

今後も本委員会では、これから看護職を目指す人、新人看護師としてスタート地点に立った人など看護の道を歩む人たちをサポートしつつ、看護の素晴らしさを伝える活動を進めて参ります。

最後に、ご参加・ご意見をいただきました関係者の方々へ、重ねてお礼申し上げます。

福岡県看護協会 看護の進路・進学支援委員会 一同

参考資料

- 1) 看護, 11月臨時増刊号,第73巻,第14号,通関985号,2021年11月
- 2) 看護管理,第31巻第9号(通巻349号),2021年
- 3) 西田智子:新人看護師の成長を支援するOJT,医学書院,2020年

令和3年度 福岡県看護協会 看護の進路・進学支援委員会 主催（令和3年8月18日開催）
「看護学校と職場の情報交換会」実施報告書

令和4年3月22日 発行

運営・協力 看護の進路・進学支援委員会（令和3年度）

委員長 森 雄太 副委員長 宮尾久美子

委員 山本裕子、原崎礼子、浦田由香、平井亨樹、橋本香織、紫牟田祥子

担当理事 湯元照子

連絡先 公益社団法人 福岡県看護協会 看護の進路・進学支援委員会
福岡県福岡市東区馬出 4-10-1 ナースプラザ福岡
